

令和5年度 社会部会研究計画(概要版)

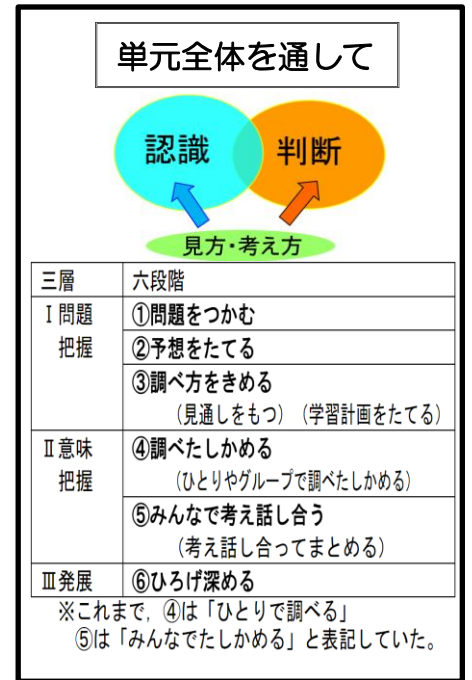
1 研究主題

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子供が育つ授業の創造
 ー見方・考え方を働かせて、社会に対する認識と判断する力を育む単元構想と授業展開ー

2 研究の方向性について

※認識と判断の両面を育んでいく研究

- 見方・考え方…社会的事象の特色や意味などを考えたり、構想したりする際の「視点や方法」。
- 認識を育む…社会がより深く分かるようにする。(社会における特色や意味, 理論などのより深まりのある認識を育む。)
- 判断する力を育む…根拠をもって選んだり決めたりする力を高める。(友達と対話をしながら多角的に考え, 判断する力を高める。)



3 研究内容について

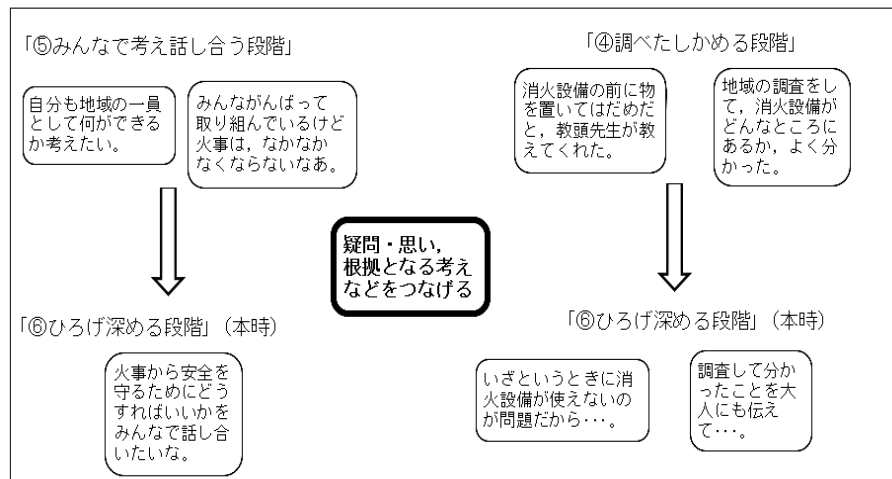
- 【研究内容1】子供の意識をつなぐ単元構想**
 (1)単元構想の工夫 (2)振り返りの工夫
- 【研究内容2】判断場面における教師の手だて**
 (1)判断場面を設定する際の手だて
 (2)判断場面を設定した後の手だて
- 【研究内容3】ICTの効果的な活用**
 (1)一斉学習における活用 (2)個別学習における活用
 (3)協働学習における活用

【研究内容1】子供の意識をつなぐ単元構想

(1) 単元構想の工夫

以下のような構想を指導案に文章で記述。(構造図や指導計画を工夫して表してもよい。)

- ・本時まで、「どのような思いを高めておくか」「どのような疑問を深めておくか」「どのような調べ学習を行っておくか」など
- ・本時の後、「学習したことがどのように次の学習につながるか」「判断したことがどのように次の学習につながるか」など



(2) 振り返りの工夫

①振り返りの観点を示す

- ア、学習内容や学習方法について自覚する観点
- イ、自身の変容を自覚する観点（学習の調整を含めて）
- ウ、今後の学習や未来へと意識をつなげる観点

②子供の考えを見取る

アンケート 考えの変化の可視化 授業後インタビュー 毎時間の振り返りシート 等

③子供の考えを広める

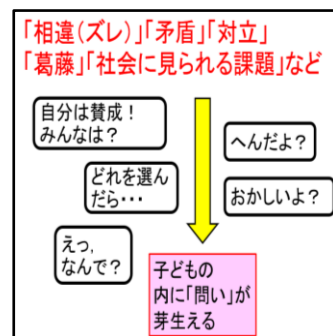
背面掲示（壁面掲示） 意図的指名 見取り表の配布 等

【研究内容2】判断場面における教師の手だて

「問いかけ」「資料提示」「板書」「意図的指名」等の手だてを(1)(2)へ

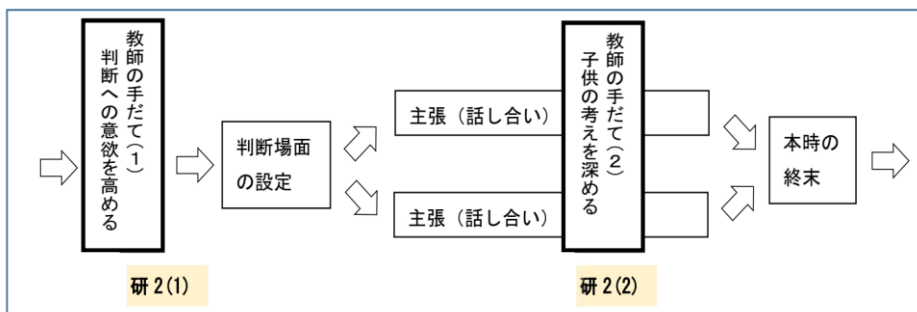
(1) 判断場面を設定する際の手だて

子供たちが「友達と話したい」「みんなの意見を聞きたい」となるような「**判断への意欲を高める手だて**」について研究を進める。右の図のように「矛盾」「対立」「葛藤」「相違（ズレ）」や「社会に見られる課題」などが手がかりとなるのではないか。



(2) 判断場面を設定した後の手だて

話し合いを展開している中で、子供たちの「**考えを深める手だて**」について研究を進める。単に「話し合って終わり」ではなく、教師の出どころを見定めて手だてを講じることにより、子供たちの考えが深まるようにする。「見方・考え方」を意識した上で、「ゆさぶる」「焦点化する」「論点を整理する」「新たな情報を提示する」「視点や立場を変える」「判断を練り合う際の視点を例示する」ことなどが手がかりとなるのではないか。



※「判断場面における手だて」に焦点をあてて研究を行うが、そこで研究を深めた手だてが今後、単元の色々な場面においても生かされると考える。

【研究内容3】ICTの効果的な活用

研究内容3は本来、研究内容1・2の内容の一部であるが、教育のICT化導入期という状況をふまえて特に取り上げたものである。

(1)一斉学習における活用

- 教員による教材の提示（教材・教具・資料の拡大提示 等）

(2)個別学習における活用

- 調査活動（資料を読み取る，見学する，インターネットで調査する 等）
- 表現・制作（デジタルノートやワークシートにまとめる，学びの振り返り 等）

(3)協働学習における活用

- 発表や話し合い（グループや学級全体でのプレゼンテーション・話し合い 等）
- 協働での意見整理（意見の共有，比較検討，議論して整理する 等）
- 協働制作（グループでの分担，協働による作品の制作 等）
- 学校の壁を越えた学習（遠隔地との交流，オンライン見学 等）

※詳細な研究計画は、社会部会 HP に掲載しております。ご活用ください。
<https://shokyoken-shakai.tokushima-ec.ed.jp/>